



覚を味わえます。初めての人にも、専門ガイドがスノーシューの履き方や歩き方のコツを教えますので安心です。
雪も飯南町の宝物。この冬を大いに楽しみましょう。非日常的で贅沢な時間があなたを待っています。

森林セラピー博学講座
極寒の飯南町セラピーロードに
昆虫？

写真の雪の上をじーと見つめてみると、黒い点が見えませんか？



これは雪虫という昆虫です。雪虫は、1月から早春にかけて雪の上で活動する昆虫の呼び名で、雪溪カワゲラやユキガガンボなどがいます。雪溪カワゲラは羽を持たないので飛ばません。雪の上を歩きまわっている虫の姿を目で追うと、すべての虫が同じ方向に進んでいることがありま。これは自分が生まれた川上を目指していて、太陽を目印に方角を計っているそうす。

マイナス10度〜10度の間でしか生きられず、捕まえると、人間の体温ですぐに死んでしまいます。見るときは、そーと見てくださいね。



雪の中で森林セラピー
島根県随の積雪量を誇る飯南町。特に奥小田にあるセラピーロードでは、例年2メートル以上の積雪があります。
この雪を活かした飯南町ならではの森林セラピーのメニューに「スノーシュートレッキング」があります。スノーシュートレッキングは、スノーシューと呼ばれる西洋かんじきを履いて、雪の上を沈まずに歩くこと。降り積もった雪のおかげで、普段は歩けないところもどんどん歩けます。誰も通っていないフワフワな雪の上を歩く気持ち良さを想像してみてください。二面の銀世界は音を吸収するため、静寂の中五感が研ぎ澄まされ、自分の体が自然に溶け込んでいくような感覚

俳句

琴峯華句会 十二月例会作品抄

笹鳴や一本道は川添ひに 安部 豊枝	カレンダーめくりめぐりて師走なり 土池 博子
売出しの幟はためき街師走 石田シヅカ	獣らの目の高さなり冬苅 朽木 豊子
暮れ色の早し吾が里農の里 垣内 良野	山ひとつ隠して時雨下りて来し 松平富美子
小春日の日溜り猫と分けあいて 佐々木康子	枯紫陽花かたち残してゐたるのみ 八嶋 敏江
幸せと思つ気持も年の暮 田部智津子	そこで道路の補修師走めく 山崎智恵美
灯を消して窓を開ければ冬の月 森 征子	冬耕や余生と言つを忘れていて 八嶋 昭男

短歌

赤名短歌会 十二月例会詠草

病院の三階の窓によりたてば銀杏の黄葉はらうが見ゆ 岩佐 恒子	石田フクエ
朝の日にいのちたまわり露光る木々の小枝にも草紅葉にも 吉川 暎子	澤田久美子
手のひらに載せて賽の目豆腐切る冬至日暮れて女の厨 石田フクエ	澤田 勝登
日記とうはごにあらねど厨にてつらん冬の日々の断片 澤田 勝登	星野 敦子
飯南の行政狭に生きつ居りみわたす余生有視界飛行 星野 敦子	本間 麗子
裏庭の落ち葉寄せれば母娘にて短歌を習ひし季に包まる 本間 麗子	島田 勝信
本間家の土になれよと言いつ亡父六十年前の師走の佳き日に 島田 勝信	門所 詠子
夕闇がかぶさるやうに落ちかかる山道ぬけむと犬も急げり 門所 詠子	清原 豊明
小春日に凜と咲きる野の草の霜にも負けず吾にほほえむ 清原 豊明	
世の歪子ども食堂幾多あり心を寄せるひとまたおとし 清原 豊明	

すこやか

12月届出分

新生児	居出人	地区
細山	陽向汰	主 馬(上赤名)
森	陽稀	雅 裕(頼原)
八嶋	桃世	洋 平(野萱)
やすら	12月届出分	
お名前	親族	地区
那須	君 様	石井洋子(川東)
田部	睦恵 様	高 久(野萱)
澤	春恵 様	康 博(下赤名)

今日の人権標語

「家族でつくる人権標語」優秀作品から

やっちゃんだめ
じぶんがされたら
いやなこと。

赤名小3年 安田 紗里奈さん
家族名 安田 隆志さん

標語に込められた思いを町民みんなで意識し、差別や偏見のない明るいまちづくりをめざしましょう。

今日の表紙

一年間の抱負や目標を書いたり、字の上達を祈願したりする「書き初め」令和初の「新春書き初め大会」が1月5日(日)に来島基幹集落センターで開催されました。当日足を運んだのは、子どもとその保護者45人。皆が真剣な表情でお手本にらめつ。時折見せる笑顔が書の達成感を改めて教えてくれました。
この大会は、飯南町文化協会が毎年この時期に開催。誰でも参加できます。来年は足を運んでみては？



飯南町国道54号活性化
アクションプラン推進協議会



仕事終わりに集まって編集作業

設立から10年を迎えた、国道54号活性化アクションプラン推進協議会。しかし、どんな目的で、どんな活動をしているのかわからない人も多いのでは？本協議会の取り組みを連載で紹介しします。

■問合せ
国道54号活性化アクションプラン推進協議会
(い〜にゃん人つなぎ協議会)
電話76-2864(地域振興課)

しめ縄本「島根県飯南町と大しめ縄」制作に隠された裏話

本協議会では、昨年10月に飯南町の大しめ縄の歴史と文化をまとめた本を制作し、町内外に本を設置しています。今回はしめ縄本制作に隠された裏話を少しだけ紹介します。

裏話①「構想は2年前」

協議会の第一版「飯南町マニアック&おもしろ歴史ばなし」を発行後、町内の人がほかにどんな歴史に興味があるかを知る機会もかねて、「飯南町の歴史に関する勉強会」を開催しました。そのとき、飯南町としめ縄の関わりや受け継がれてきた文化を「知りたい」という声が多くありました。これが約2年前。

そして翌年、日本一の大しめ縄の制作を控えていたこともあり、町内外からしめ縄に係る問い合わせが増えてきました。このとき「なんとなく知っているけど、ちゃんと説明できない」ということを実感しました。この経験が本の構成にも結び付いています。

裏話②「膨大な校正量」

協議会メンバーのうち、歴史文化部会の数人で集まり、資料や文献を持ち寄って調べたり、歴史博物館の学芸員さんの話を聞いたりして、執筆と編集を繰り返しました。印刷会社の選定後は何度も校正を重ね、気付けば12回の校正。冊子が手元に届いたときの感動は忘れられません。